

廬山二勝並敘其一 開先漱玉亭 蘇軾

余游廬山 南北得十五六奇勝 殆不可勝紀

而懶不作詩 其尤佳者作二首



高巖下赤日 深谷來悲風

擘開青玉峽 飛出兩白龍

亂沫散霜雪 古潭搖清空

餘流滑無聲 快瀉雙石硤

我來不忍去 月出飛橋東

蕩蕩白銀闕 沈沈水精宮

願隨琴高生 脚踏赤鯁公

手持白芙蕖 跳下清冷中

廬山は二勝を並敘す 其一 開先漱玉亭 蘇軾

余、廬山に游するに、南北に十五六の奇勝を得るも

勝紀を殆く不可

懶りて詩を不作と而も其の尤佳なる者を二首作る

赤日は高巖に下り 深谷に悲風は来る

青玉峽を擘き開いて 兩の白龍は飛び出で

亂沫は霜雪に散り 古潭は清空に揺れ

餘流は聲無く滑り 雙石の硤に快て瀉ぐ

我來れども去に不忍 はや橋東に月は飛び出づ

蕩蕩たる白銀の闕に 沈沈たる水精の宮

願くば琴高の生に随ひ 赤鯁公を脚踏すといへども

白き芙蕖を手持て 清冷の中を跳下せむ